

渡 辺 義 介 賞



三菱製鋼(株)代表取締役会長

阿 部 芳 平 君

わが国特殊鋼の進歩発展、特に自動車用構造用鋼・ばね鋼の製造技術の発展

君は、昭和19年9月東京帝国大学第一工学部冶金学科卒業後直ちに三菱製鋼(株)深川製鋼所に入社、主として製鋼技術、ばね技術の研究開発に従事し、東京ばね製作所副所長、東京製作所副所長を経て、昭和52年取締役技術開発センター所長に就任、昭和56年常務取締役として技術開発センター所長、昭和58年製造本部長を歴任した。昭和60年6月取締役社長に就任。平成元年6月取締役会長に就任し現在に至っている。

この間、次に述べるとおり、わが国鉄鋼業とくに特殊鋼の進歩発展に多大の業績をあげた。

1. 製鋼技術の発展と鉄鋼生産の近代化に関する功績

君は、30有余年にわたり製鋼技術の現場において、たゆまざる研究開発と、果敢な実行力とをもってその進歩発展にあたり、特殊鋼材の品質改善とコストダウン及び量産体制を確立した。その主な業績を挙げると次の通りである。なお、これにより昭和58年渡辺三郎賞を受賞した。

(1)自動車用構造用鋼及びその製造技術の確立において、軽乗用車用材料としてマンガン鋼及びマンガンクロム鋼の開発・実用化をいち早く手掛け、これらの鋼種の製造技術を確立するとともに、機械構造用鋼としての用途拡大に尽力した。特に自動車用歯車材は、SNCM或はSCM系が主流であったが、モジュールに適した材質を開発すべきとの見地から新鋼種を開発し、これらの鋼種は日本工業規格に採用され、JIS-G4025, SMn443H,

SMnC420H等として小型自動車のコストダウンに大いに寄与した

(2)高品質ばねの製造技術の確立について、圧延黒皮のまま使用される高応力巻ばねの製造技術を他にさきがけて確立し、製鋼から完成板ばねに至る全工程につき生産技術、品質管理の両面から検討を加え安定した黒皮巻ばねを低価格で自動車・建設機械用として提供した。

一方自動車産業で使用されるばねには、高応力のものが強く要求されるようになり、これに対応するために材料の成分、焼入性、非金属介在物、脱炭防止を含めた表面品質についてシステムチックな技術の開発を積極的に進め、ユーザーの要求を満足する性能を備えた高応力ばねを提供した。

2. 海外経済に対する協力

君は、広い国際的な視野に立ち、且つ善隣友好を積極的にすすめる観点から、昭和53年インドネシア、昭和58年タイに、そして63年には台湾で自動車用板ばね・巻ばね製造のための技術援助契約を結び、さらに昭和61年にはカナダ・トロントに自動車用巻ばね・スタビライザー等の現地生産会社の設立を指揮した。

君の活躍は、広く鉄鋼業界、産業界の全般にわたり、日本鉄鋼協会理事・監事、日本鋳物協会理事、経済団体連合会評議員、日本鉄鋼連盟理事として産業経済の発展に大きく貢献した。